

# 加工場を作ることのメリット

---

## ①森林資源を活かした6次産業に取り組める

建築用材、家具用材、玩具、おが粉等の加工も可能となる

※現在：植栽⇒保育⇒利用⇒原木丸太⇒出荷

※加工場作った未来：植栽⇒保育⇒利用⇒原木丸太⇒加工⇒出荷もしくは直接販売

## ②雇用の場が増える

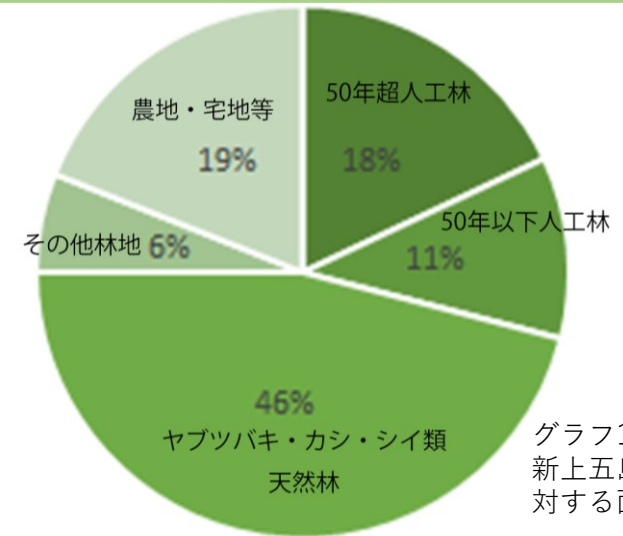
加工場のみならず植栽や保育による人員、販売スタッフ、体験教室のインストラクターの雇用が期待できる

## ③上五島ヒノキのブランド定着

加工場を加工場のみの使用に留めず、ヒノキのおもちゃ作りやヒノキのキーホルダー作りなどの体験教室等も定期的に関き、観光スポットとしてPRしていき上五島ヒノキを広める。また、SNS等活用し全国へと発信し認知度アップに繋げる。

# 地域資源を活かした 持続可能な『ぬくもり』の島 ～五島ヒノキの魅力を最大限に引き出す新上五島町の未来デザイン～

グラフ1に示すように、本町の総面積のうち約30%が人工林であり、そのうち18%にあたる4,227haが50年生を超す人工林となっている。人工林の林齢分布でも少子高齢化が顕著となっており、今後ますます増える50年超の人工林の木材を、利用し再生林をしていく事が急務となっている。



グラフ1  
新上五島町総面積に  
対する面積の割合

写真1は、今まで主流であった保育間伐（切捨間伐）の施業終了後写真である。劣勢木を選定し、切り捨てる事で、他の優良木が育ちやすいように管理をしている。



写真1 保育間伐施業後写真

写真2は、今後主流となる利用間伐（搬出間伐）の作業写真である。高性能林業機械を用いて、原木丸太を林内から搬出する。今後この利用間伐の作業量が増える事が期待されている。



写真2 利用間伐作業中写真



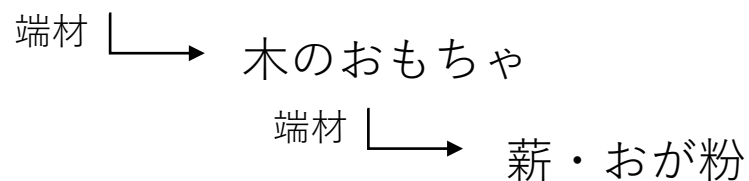
# 木材加工施設を用いた『ぬくもり』の島デザイン

現在本町では、ほぼ100%原木丸太のまま島外に出荷されている。その量は年間2000m<sup>3</sup>前後であり、前述したように、今後はさらに増加していくことが予想される。



木材加工施設を作る事で、多くの『ぬくもり』が創出できる。また、雇用の増加・森林資源を活かした6次化産業への取り組みが期待できる。

建築用材・家具用材



# 五島ヒノキから生まれる⑤つの『ぬくもり』

---

## ①見るぬくもり

道路交通標識・ガードレール・車止め・公園ベンチ等の木質化

## ②触るぬくもり

公共建築物の木質化・住宅の内装材や浴室の木質化

## ③感じるぬくもり

薪ボイラー・薪ストーブを使用した化石燃料に頼らない熱源

## ④遊ぶぬくもり

子供が安心して遊べる木のおもちゃ

## ⑤懐のぬくもり

円安・ウッドショックによる、島外・海外への出荷・輸出による大幅な利益の見込み

# 加工場の未来



加工品販売所

- ・ 加工体験教室
- ・ 加工作業場（小物等）
- ・ 事務所、広報室（SNS等）

加工施設、加工作業場（建築用材、家具用材等）

土場